

# 第77回全国装蹄競技大会

## 装蹄判断競技 競技ガイドブック

### 1. 判断馬

1 頭

### 2. 規定時間

25 分

### 3. 記載用紙

日本装削蹄協会が作成し、公開した判断用紙を用いる。

### 4. 判断競技の詳細

#### 1) 肢勢

競技馬の四肢をほぼ均等に負重させた状態で前望、後望および側望から競技馬の四肢の踏み位置、肢や蹄の向き、立ち方の特徴などについて記載する。

#### (1) 前望肢勢および後望肢勢

前望肢勢と後望肢勢で、競技馬が複合肢勢を呈している場合は、歩様との整合性を考慮した踏み幅と向きで記載する。

#### ① 前望

- 踏み幅と向きについて観察し、両前肢の肩端から下ろした垂線が前肢を内外に等分し、腕関節を含めて肢が正面を向く状態を「標準肢勢」と記載する。
- 標準肢勢よりも左右肢の踏み幅が広い状態を「広踏肢勢」、狭い状態を「狭踏肢勢」と記載する。
- 標準肢勢よりも肢の向きが外に向いた状態を「外向肢勢」、内に向いた状態を「内向肢勢」と記載する。

- 前望肢勢で、肢の向きが球節以下の部分だけが内に向いた状態を「仮性内向肢勢」と記載する。

## ②後望肢勢

- 踏み幅と向きについて観察し、両後肢の臀端から下ろした垂線が後肢の飛節以下を内外に等分し、飛節を含めて肢が正面を向く状態を「標準肢勢」と記載する
- 標準肢勢よりも左右肢の踏み幅が広い状態を「広踏肢勢」、狭い状態を「狭踏肢勢」と記載する。
- 標準肢勢よりも肢の向きが外に向いた状態を「外向肢勢」、内に向いた状態を「内向肢勢」と記載する。

## (2)側望肢勢

前肢と後肢の両方の側望肢勢の踏み位置の状況で、前肢側望の後踏肢勢と後肢側望の前踏肢勢では「集合肢勢」、前肢側望の前踏肢勢と後肢側望の後踏肢勢では「分散肢勢」と記載する。

弯膝や曲飛など、側望肢勢における特異肢勢はこの欄に記載する。

### ①前肢側望

- 肩甲骨中線の上 1/3 の部位から下ろした垂線が、肘以下を前後に二等分し、球節の中央を通過して、蹄球の後端に触れる状態を「標準肢勢」と記載する。
- 標準肢勢よりも肢が前方を踏んでいる状態を「前踏肢勢」、後方を踏んでいる状態を「後踏肢勢」と記載する。

### ②後肢側望

- 臀端から下ろした垂線が、飛節の後端と球節の後部に触れ、蹄球のやや後ろに落ちる状態を「標準肢勢」と記載する。
- 標準肢勢よりも肢が前方を踏んでいる状態を「前踏肢勢」、後方を踏んでいる状態を「後踏肢勢」と記載する。

## 2) 蹄形

- 肢勢や体重負担の影響によって生じた蹄形名称の記載を原則とする。
- 不同蹄を記載する場合、左右蹄の大きさと角度についても記載する。
- 病的な変形蹄（狭窄蹄・拳踵・蕪蹄など）は、疾病損徴の項目に記載する。

## 3) 歩様と先着部位

誘導者が競技馬の頭頸部の動きを矯正しないように引き綱を保持し、また競技馬の首筋から背線に至るラインがほぼ直線になるような状態で、競技馬を水平で平坦な硬い路面上を常歩で直進させ、往路と復路で前肢ならびに後肢の歩様および四肢の先着部位を記載する。

- 捻転歩様、交差歩様などの特異な歩様についても記載する。
- 仮性内弧歩様は、仮性内向肢勢で、外内弧歩様を示した場合に使用する。

## 4) 疾病・損徴

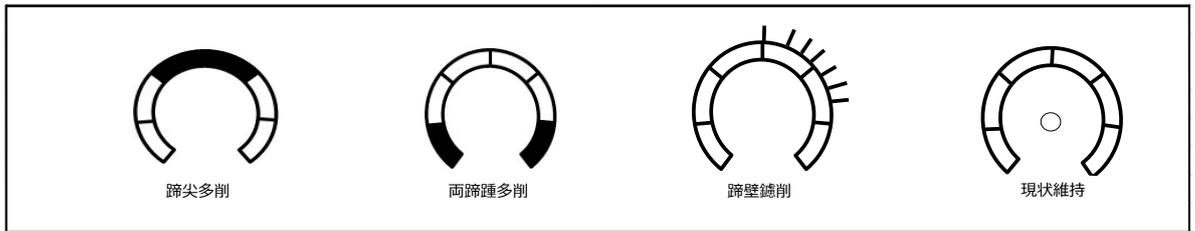
- 原則として装蹄に関連する内容だけを記載する。
- 弯膝・熊脚・曲飛などの特異肢勢は肢勢の項目に記載する。
- 専門用語以外でも疾病の症状を明確に説明する用語での記載も認める。（例：軟腫＝腫れ、腫脹）

## 5) 多削部位と蹄角度の適否

多削部位と蹄角度は、整合性を考慮して記載する。

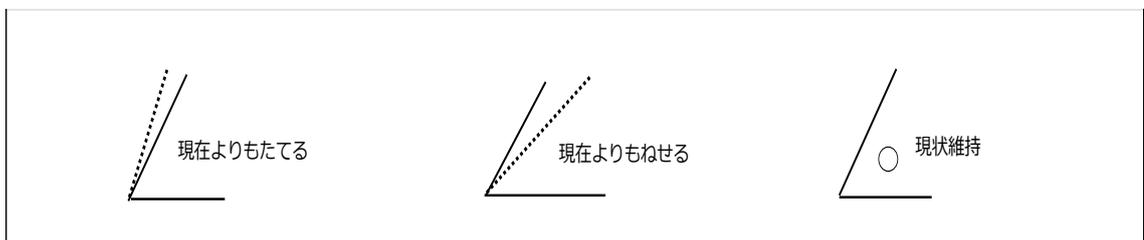
### ①多削部位

- 以下の様な方式で記載する。



## ②蹄角度の適否

- 以下の様な方式で記載する。



## 6) 装蹄方針

- 肢勢、蹄形、歩様、疾病損徴などの状況を各種の装蹄理論に照らして、総合的に判断し、競技馬に対して最も適した装蹄処置について具体的に記載する。
- 記載は箇条書きを基本とする。
- 装蹄方針として記載した内容どうし、または多削部位など別項目とも整合性が取れていなければならない。